

■加藤高明 外交官・政治家。三菱をはじめ財閥の利益を代表して元老と対抗、念願の首相になるも、直後に死去。

かとうたかあき

桜田門外変・1860＝ 尾張藩海東郡佐屋の代官手代上席服部重文の次男に生まれる。

明治維新・・1868＝ 8歳：

戊辰戦争終・1869＝ 9歳：

学問のすすめ1872＝12歳：同じく下級武士であった加藤家を継ぎ、

明治6年政変 1873＝13歳：

佐賀の乱・・1874＝14歳：東京外国語学校に入学し、高明と改名、

東京開成学校を経て、

大久保暗殺・1878＝18歳：

明治14年政変1881＝21歳：\_東京大学法学部を首席で卒業し、三菱会社に入社。岩崎弥太郎の知遇を得、

岩倉具視没・1883＝23歳：\_イギリスに遊学、陸奥宗光の知遇も得、

内閣発足・・1885＝25歳：\_帰国するや、三菱本社副支配人として郵船会社に入り、

帝国大学始・1886＝26歳：弥太郎の長女春治と結婚。

国民之友始・1887＝27歳：\_陸奥宗光の請をいれ、公使館書記官兼外務省参事官として官界に入り、

初の対等条約1888＝28歳：\_大隈重信外相の秘書官兼政務課長となり、条約改正の立案に参加するも挫折、大隈とともに下野したが、

帝国憲法発布1889＝29歳：

帝国議会始・1890＝30歳：\_大蔵省に迎えられ、

参事官を経て、銀行・監査・主税の三局長を歴任。

日清戦争始・1894＝34歳：\*日清戦争開始とともに陸奥から外務省に招かれ、駐英特命全権公使として赴任、

白馬会・・・1896＝36歳：

日英提携・対露強硬策を主張するようになって、

Bushidou・・1899＝39歳：帰任し、

ピアノ国産化・1900＝40歳：\*第4次伊藤内閣の外相となり、日英同盟を推進。

教科書疑獄・1902＝42歳：高知県より衆院議員に当選、伊藤・大隈の反桂提携をはかる。

日露戦争始・1904＝44歳：東京日日新聞社長となる。

日露戦争終・1905＝45歳：

満鉄発足・・1906＝46歳：第1次西園寺内閣の外相となったが、鉄道国有化に反対してわずか55日で辞任。

ワラキ創刊・1908＝48歳：\_駐英特命全権大使となり、日英条約改正・日英同盟改訂に尽力、

大逆事件判決1911＝51歳：男爵となる。

明治天皇没・1912＝52歳：\_帰国に際して、山本権兵衛の斡旋で桂と和解、意気投合し、

大正政変・・1913＝53歳：\_第3次桂内閣の外相となり、桂とともに立憲同志会を組織、桂の死後総裁となる。

第一次大戦始1914＝54歳：\_第2次大隈内閣の外相となり、第1次世界大戦に際し、対華21か条要求を提出・受諾させる。

山県有朋ら元老の意向を無視した強引な政策決定を続けたため、その怒りを招き、

21ヶ条要求・1915＝55歳：\_大浦内相事件を契機に、内閣連帯責任を強調して下野、貴族院議員に勅撰され、

民本主義・・1916＝56歳：子爵。\_憲政会を組織し総裁となると、憲政の常道・元老政治の打破・選挙権拡張を唱え、

野党党首としての節を守るも、原敬率いる政友会の圧迫で、苦難の在野時代が続く中、持ち前の剛直さと、若槻礼次郎・浜口雄幸ら有能な側近の支持で乗り切る。

原敬首相暗殺1921＝61歳：

水平社結成・1922＝62歳：\_普通選挙採用を決意して、政治運動の主導権を握り、

関東大震災・1923＝63歳：

護憲三派圧勝1924＝64歳：\_革新俱樂部・政友会とともに護憲三派を結成して、清浦内閣に対抗し、

治安維持法・1925＝65歳：\*ついに自ら首相として内閣を組織し、普通選挙法・治安維持法を制定したが、閣内紛争により、

円本時代始・1926＝66歳：\*総辞職、ただちに憲政会単独内閣を組織するも、病にかかり、首相在任中に、没した。